

この章では、ネサワルピリ王の葬式のあと、どのようにしてモンテスマ王がアクルワカンの長老会議の者たちを、彼らの王を選ぶために呼び寄せ、そして誰が指名されたかについて扱う。

第 103 章 モンテスマとシワコアトルの間でアクルワカンの王の選出について協議がなされた後、シワコアトルはメシーカの有力者たちの中から特に地位の高い 4 人を、アクルワカンの人々を招き寄せるために派遣した。それを受けて、アクルワカンの有力者たち、すなわちトゥランシゴに至るまでの全ての町の有力者たちが、1 人残らずやってきた。彼らがモンテスマのもとに到着すると、モンテスマは彼らに言った。「すみやかに王が指名され、即位するのがよいであろう。あなたたちの民が王を持つことは、メシーカの王家にとって望ましいことであるからだ。〔ネサワルピリ王は〕何人の息子を残しているのか。それはどのような者たちなのか。」アクルワカンの長老会議は答えて言った。「王が残した息子たちのうち、1 人目はトクパクシュチウ（花の輪）という者、2 人目はコアナコチ（耳輪のついた蛇）という者、3 人目はトラウイトル（弓）という者、4 人目はイシュトリシュチトル（色のついた花）という者、5 人目はケツァラクショヤトル（山谷の花）という者です。」モンテスマはアクルワカンの有力者たちに言った。「あなたたちは誰がいいと思うか？ もしあなたたちが、私が王を選ぶことを望むなら、私はケツァラクショヤトルを選ぶ。彼はその兄たちよりも有能で賢明であるように思うからだ。それゆえ私はあちら〔アクルワカン〕に、我が兄弟にして相方のシワコアトルを派遣し、王国・王位・王座をケツァラクショヤトルが引き継ぐように取り計らってもらおうつもりだ。メシコの長老会議の者たちもシワコアトルに同行させよう。」その後、アクルワカンの有力者たちは〔アクルワカンに〕到着すると、従属する全ての町の有力者たちを招集した。そして町を豪華に飾り、広間、席と台、たくさんの花、香炉、たくさんの鳥、七面鳥、鶏、鶉、蛇、野兎、兎を用意し、神官たちも神殿を飾ったり清めたりした。シワコアトルは、到着するとすぐに若者ケツァラクショヤトル¹を呼び、部屋の中にあるかがり火の近くに来させて、その頭髪を武将のように剃り、その体を黒く塗り、刺繍の施された下帯と、青い下帯に合う豪華な青いマントを着せた。そして鼻の軟骨に穴をあけて美しいエメラルドの緑色の筒を通し、手首と右くるぶしには、焼きしめた矢（トラツォンテクトリ）を投げるための色の付いた皮をつけた。そ

¹ 原注 228 人差し指を伸ばした手。

れから、虎の皮が張られたテポツォイクパリと呼ばれる低い椅子と、同じく虎の皮で覆われた脇台のある所へ彼を連れていき、シワコアトルが自らの手で、彼を椅子に座らせ、石細工のついた青い王冠あるいは頭飾りを授け、脇台の上の右腕には彼が保持しなければならない正義を意味する弓と矢筒を持たせた。それを終わると、シワコアトルはケツァラクショヤトルに語りかけた。「若き王よ、この玉座をご覧になるがよい。これは汝の祖先である祖父母や父母たちが残したものである。ケツァラクショヤトルよ、いま、勇敢なるモンテスマ・トラカテカトル王が、汝にこの玉座を与え、そこに座らせる。それはテツァウィトル・ウィツィロポチトリの啓示によって、汝に与えられるように命じられたことなのである。思い出せ、息子よ、アストラン・チコモストクで神々と王たち²が我らを治めた起源の時、最初の時のことを。〔王たちの〕一人はセ・アカトル、ナクシトル、ケツァルコアトルという名であった。彼らはこのようにして世界を治め、チチメカの民であるメシテイン人、つまりは現在のメシーカ人を治めた。彼らはこのようにしてトゥーラでも、クアウトランでも、治めてきたのだ。実に、どこにおいても、大地は赤く染まり、雲は湧き立ち、空は薄暗かった。この誉れのために、人々は死んでいった。いにしえの者たちがもたらしたものを、今、我々は手を汚すことなく、メシーカの血を流すことなく、享受している。いまや〔メシーカ人が〕全世界を治めているのではないか。汝はそれを十分に承知しているはずだ。見よ、汝のこの王座は、モヨコヤ〔ニ〕³・ティトラカワン（我らは彼の僕なり）と呼ばれる方の御心によるものなのだ。よいか、息子よ、汝は何よりも、あらゆる正義を守り、国のためになることに目を向けねばならぬ。子供も大人も、貧しき者も富める者も、とくに老人を、愛し敬うのだ。貧しき者を慈しむのだ。怠惰な者には、種をまかせ、耕させよ。その腹を満たすために、種をまかせ、果物とマゲ〔イ〕を育てさせよ。彼らはそのようにして、糧を得るのだ。何よりも、神殿をつねに清く保ち、昼も夜も火を絶やさないようにせよ。神官たちは、神殿の神に祈りを捧げ、寝ず番をさせ、勤行に励むように。汝は山を登り、洞窟や泉におもむき、すべてをおろそかにすることのないように。何よりも、汝の王であるメシーカ王家の命令に速やかに応じるようにせよ。」これに対して、新王ケツァラクショヤトルは〔メシーカ〕王家に謹んで従うと返答し、このような恩恵に感謝して、シワコアトルの足と手に口づけをした。それと、そのほかの長い語り、

² 原注 229 人差し指を伸ばした手。

³ moyocoyani 「自らを作り出す者」の意。

誓いの言葉をもって、新王の即位の式辞が終わった。後日、アクルワカンを発ったシワコアトルがメシコに戻り、モンテスマに挨拶をし、命じられていた通り即位式が遂行されたことを報告した。こうしてすべてが終了した。ある日、トラチキアウコ〔トラヒアコ〕の人々に関する次のような報告が届いた。ティエラ・カリエンテのコアイシュトラワカン〔コイストラワカン〕の人々がグアシャカ〔オアハカ〕の人々とともに貢納物を運んでいると、トラチキアウコの人々は彼らの存在に気づくと、彼らに、何を運んでいるのか、どこから来たのかを尋ねた。そしてモンテスマ王への貢納物に襲いかかり、さらに彼らに傷を負わせ、運んでいたものをすべて持ち去った。メシーカの長老会議にその報告がなされると、モンテスマは激怒して言った。「よかろう、下がるがよい。」そして報告者たちに食事と衣服を与えると、アクルワカンとテパネカ人が住むトラルワクパン〔トラルワカパン〕の王たちを召集し、そしてすべての近隣の町に伝令を送り、それから武将と戦士たちからなる軍勢を用意させ、そしてチャルコ人たちに先遣隊を組ませるよう指示した。こうして必要な兵糧をすべて携えて彼らは進軍を開始した。そして例の町の境にあたるアコテペクと呼ばれる場所に全員がたどりつくと、そこでメシーカ人たちは、敵の者たちが打ち負かされて死んでいくような状況になったら、敵の半分は死なせ、残りの半分は捕虜にし、町には女と子供と老人以外は残さないように、と命じた。そして深夜になると人を遣って、〔トラチキアウコの人々が〕何をしているか、町には出入口がいくつあるか、どこを通過しているかを偵察させた。すると偵察隊は、町の人々は興奮状態⁴にあり、メシーカ人との戦いに臨むために自らを鼓舞していると報告した。メシーカ人たちはこれをよしとした。これを聞いて、メシーカの有力者たちは言った。「よし、メシーカ人は、町の背後から一丸となって入り込め。アクルワカンとタクバの者たちは側面から、チャルコ人たちは正面から当たれ。」メシーカ人は町に入ると雄叫びをあげ、他の者たちも両側面から雄叫びをあげた。すると、それを聞いた正面の者たちが、雄叫びをあげて攻めこんだ。メシーカ人たちはまず神殿と、テクパン即ち有力者の館を焼き討ちし、敵の者たちに、彼らは打ち負かされて絶体絶命の状況にあることを知らしめようとした。敵の者たちは高台に登り、そこから大声で叫んだ。「メシーカの人々よ、これ以上はやめてくれ。もう多くの者が死んでしまった。私たちは命じられたことは何でもやる。」メシーカ人たちは戦いを

⁴ ドウランの『歴史』の対応箇所では、このときトラチキアウコの人々は自らの耳や舌や太ももを傷つけて血を流し、神々に戦勝を祈る儀礼を行っていた、という由のことが記されている。

やめるように〔戦士たちに〕告げ、そのしるしであるラッパを吹いた。メシーカ人たちは言った。「おい、メシーカ王家のための貢納物はどこにあるのだ？ まずそれを持ってこい。」（トラチキアウコの人々は）言った。「みなさん、そのことで私たちは悪事を働きましたが、すべて、一つも欠けることなく残っています。すべて保管してあります。あなたがたが望むことを、すべて私たちは行います。私たちはこの街道⁵のところにいるわけですから。ここで私たちはあなたたちを主として受け入れ、何かの戦いがあるときにはメシーカ人に十分な物資を提供します。私たちは鋼鉄のごとく硬い質の良いオタテ〔竹〕⁶製の楯（トプチマリ）や、その他のとても豪華な楯、そして鉄のように強い剣を提供します。この町にできることは、これだけです。」「よかろう。では奪ったものを全部持ってこい。」とメシーカ人たちは言った。こうして、トラチキアウコ〔トラチキアウコ〕の人々が貢納と服従を誓ったので、戦いは終わり、戦士たちは撤収した。それからメシーカの全ての要人たち、およびアクルワカンとタクバとチャルコの要人たちは、別の大きな館に入った。そこに老人や若者や女たちが、強奪した衣服を運んできた。彼らは言った。「みなさま、私たちは自分の父母であり、王にして主である、テツァウイトル・ウィツィルプチトリ〔ウィツィロポチトリ〕に対して悪事を働きました。」さらに言った。「今日から私たちは、硬い楯とその他の装飾品、燧石と鉄⁷の剣、そして何よりもメシーカ人の戦いのための物資を提供します。そしてまた、メシーカ王家から派遣されてきた方々を私たち自身の王に対するのと同じように応対します。」また人々は、海岸地方とグアカ〔オアハカ〕とテグワテンペク〔テワテンペク〕からの貢納物がこの地を通過するときには「宿と飲食物を提供せよ」と命じられた。こうして〔メシーカ人たちは帰国の〕行軍を始めた。有力者たちはメシコに伝令を送り、トラチクイアウコ〔トラチキアウコ〕の町への遠征で起こったことをモンテスマに伝えた。伝令はメシコ＝テノチティトランに着くと、モンテスマ王に、起こったこと全てを報告した。〔敵の〕者たちの半分は死に、半分は生き残ったことを伝えると、〔モンテスマ王は〕戦いの勝利に満足の意を示した。「ここで彼らを迎え入れよう。」軍が帰着すると、長老たちが出て来て、これまでと同じようなやり方で彼らを迎え入れた。そして捕虜たちはウィツィロポチトリの前に連れていかれ、有力者たちもやってきた。そこ

⁵ この地域には、テノチティトランとその貢納・交易地域をつなぐ主要な街道が通っていた。

⁶ *Otatea sp.* メキシコ産の竹の一種。メキシコ国立歴史博物館（チャプルテペク城）所蔵のメシーカ期製羽根モザイクの盾の支材に使用されていることがわかっている。

⁷ 実際はこの地域には鉄の剣は存在しない。

でみなが指で土を食べ〔る儀礼を行い〕、それから〔神殿ピラミッドを〕降りて
いってモンテスマ王に拝礼した。戦争で起こったことの報告を受けた王はこれ
に満足の意を示した。この時はちょうど年末であり、哀れな捕虜たちは生贄にさ
れた。それを終わると、モンテスマは捕虜を捕えた者たちを、その働きに対して
褒賞を与えるために呼び寄せた。彼らが参上すると、ペトラカルカトルに用意し
ていたものを運び込ませた。それらが運び込まれると、トラコチカルカトルとト
ラカテエカトルを呼んで、捕虜を捕えた者それぞれに紋章と楯と剣を分配させ
た。武具と紋章が分配されると、これらは彼らの働きに対する褒賞であり、その
栄誉と勇気のしるしであることが告げられ、今後、さらに務めに励むようにと言
い渡された。

【訳：岩崎賢 2026/02/27】